

<減肥ポイント>

○有機物を活用する。窒素減肥では特に高温期の作型で有機物から窒素の無機化が見込めるため、最大限活用する。

(1) 有機物・堆肥中の肥料成分を活用する技術

使用する堆肥に表示された成分含有率に肥効率(Ⅲ有機物の肥効特性の項参照)を掛け合わせると、堆肥中の有効化な肥料成分を計算できる。こうして求めた有機物・堆肥中の肥料成分は化学肥料の施肥量から減肥することができる。

堆肥中の有効化する肥料成分は「Dr. 大地」(平成20年度普及技術)を使い算出できる。また、「Dr. 大地」では土壌分析に基づいた土壌中のリン酸、カリ及び有機物中の窒素、リン酸、カリの肥効を組み込んだ施肥量が算出でき、普及センター及びJAで助言を受けることができる。

<関連普及技術>

- ・ コーンコブ廃培地堆肥は1年生野菜・花きでは2t/10aを上限として化学肥料代替ができる(平成18年度普及技術)
- ・ コーンコブ廃培地堆肥の窒素無機化及び分解特性(平成18年度技術情報)
- ・ 土壌診断・施肥診断支援システム「Dr. 大地(ドクター大地) Ver. 3」の活用法(平成20年度普及技術:技術者・指導者向け)
- ・ 80℃16時間水抽出とCOD簡易測定キットによる畑土壌可給態窒素の簡易判定は長野県においても活用できる(平成25年度普及技術)